

学生サークル地域貢献活動

学生サークル地域貢献活動は、平成24年度に「電通大のお兄さんお姉さんと楽しむ工作教室」と呼んでいたものを、学内での正式名称としたものである。

この活動の趣旨は、地域で人気が高いが要望に答えきれていない子供向け理科教室（「調布少年少女発明クラブ」および「工作教室」）を補完すべく、目黒会支援のもとに学生サークルが新たに工作教室を開催するというものである。実際、発明クラブの応募倍率は毎年8倍を超え、工作教室も20名の一般枠はすぐに埋まるという状況である。発明クラブ、工作教室の指導員と比較すると不慣れではあるが、大学生が個人の得意分野において指導を行う工作教室は大いに存在意義があると期待される。

これまでは、理科教室の補完という意味合いが強かったため文化系サークルに限って募集を行ってきたが、昨年度は、応募団体がなかったため未開催となった

今年度は、地域貢献により重きを置き、体育会系サークルにも対象を広げることとしたため、下記のとおり陸上競技部からの応募があった。

○ 子どもの走り方教室

電気通信大学「陸上競技部」のメンバーが指導員となり、小学生を対象に「子どもの走り方教室」を行った。

- ・開催日時：平成 27 年 11 月 25 日（水）15:00～17:10
- ・開催場所：電気通信大学多摩川運動場（管理棟内教室）
- ・指導員：電気通信大学陸上競技部他計 8名
- ・参加者：低学年（多摩川児童館児童） 12名（15:00-16:00）
高学年（西部児童館児童） 9名（16:00-17:00）

・活動テーマの概要

「走る」という動作は人間の基本動作の一つであり、様々なスポーツにおいては速く走ることがそのスポーツのパフォーマンスに大きな影響を与える。子どもが様々な動作を習熟させていく上で速く走るための動きを覚えることは運動発達において非常に重要な意味をもっている。本活動では子どもに「走ること」が本来もつ楽しさを実感させ、走能力を向上させるためのきっかけとなる指導を行う。

・実施報告

当日は雨天であったため、当初予定していた多摩川運動場ではなく、多摩川運動場管理棟内の教室にて2クラスで実施した。

屋内では「走る」動作自体は難しいため、以下の動きづくりを中心に指導を行った。

- ①白樺のポーズ
- ②連続ジャンプ
- ③拇趾球への荷重
- ④ラダーを使った側方移動（空き缶つぶし歩行）

⑤ラダーを使った前方移動（空き缶つぶし歩行）

⑥ラダーを使った前方移動（走りのリズム）

指導スタッフは本学陸上競技部学生4名，陸上競技部OB1名，本学教職員3名の計8名であった。雨天のため，当初の予定人数より参加者が少なかったが，その分，コミュニケーションが取りやすく，密度の濃い内容であったと感じる。参加児童の反応も大変良く，特に高学年のクラスではわずか数十分の間に明らかに動きの改善がみられた。保護者，児童館職員からも好評で，次回の開催を望む声が多数聞かれた。本学学生にとっても，子どもに動きを指導することを通じての学びが多く，大変有意義な教室であった。

